



特
遠
2500
40-30



特選門
號 2500
卷 40-30

繪本西遊記三編卷之十

岳亭丘山譯

油漬



群 鹿 欺 本 性

一體 拜 真 如

三個の妖魔城中小飯^{こい}と入唐僧四衆を捉へ^{とら}ては是を蒸^く熟^くして吃^{くら}ふ
 べしと小妖小命^{せうまうらめ}を庭上^{にわみ}小方^{こなた}の銅^{かま}箆^へを居^ゐ其中^{なか}小水^{こみづ}を汲^{くみ}入^い上^う小鉄
 籠^{かご}を重^{おも}ね且^{かつ}八戒^{はつがい}を下^{くだ}の二隔^{ふたごゝ}小装^{こしょう}入^い沙僧^{しゃそう}と茅^{かや}二隔^{ふたごゝ}小入^{こいれ}行者^{ぎやう}を二隔^{ふたごゝ}
 小装^{こしょう}上の茅^{かや}四隔^{よごゝ}小三藏^{さんざう}と装^{しょう}入^い乾柴^{けんさい}を運^{たこ}び火^ひを焼^{やく}せ湯^ゆと湯^ゆせ^せ煮^に
 殺^{ころ}んとし^しころころ其^{その}時^{とき}行者^{ぎやう}鉄^{てつ}籠^{かご}の中^{なか}小在^{こい}て一^{いっ}根^{こん}の毫^げを投^なげ假^{かり}小行者^{ぎやう}
 小衰^{せう}がさせ鉄^{てつ}籠^{かご}の裡^{うち}小住^{こぢ}り置^お我^{われ}身^みの隠^ひ身^みの法^{はふ}を以^もて密^{ひそ}小空^{こくう}中^{ちゆう}小
 飛^と登^{のぼ}り雲^{うん}梯^し小在^{こい}て遙^{とほ}小小^{せうせう}妖^{まうらめ}が立^た騷^{さわ}ぎて火^ひを焼^{やく}を見て若^わ湯^ゆの湯^ゆ
 滾^ある時^{とき}師^し父^ふの作^{しよ}ち命^{めい}を失^しひるへ^へ且^{かつ}快^{かい}く是^{これ}を救^{すく}んと咒^{じゆ}語^ごを念^{ねん}
 北海^{ほくかい}竜^{りゆう}王^{おう}を呼^よび出^でし此^{この}一^{いっ}條^{じよう}を仔^こ細^{さい}語^ごりし唐^{たう}僧^{そう}を寺^じ護^ごりしと頼^{たの}む

繪本西遊記三編之十



無名僧の三行



如來
二が
菩薩
收
妖
怪
か

々々を竜王謹んで美諾と頓て身を一陣の冷風と裳下銅箆の下
 飛入火氣を押して外らゝぬ斯との知は老鹿十個の小娘を呼て
 輪流小火を焼て此ても怠慢度なるを我等是より畧々安歇で明朝
 熟する時塩醋を調へて空心へ受用まぐと三個の妖魔の個々森宮小
 退きたり行者を中み右に是を見届け頓て十根の毫毛を抜瞋腫虫
 と愛いさせ投下し十個の小娘の面小一隻づつ住せなむ十個の小娘忽ち
 座前後も知は倒れ臥ぬ行者則ち銅箆の一連ふ飛下し鉄箆を岡
 て師徒三個を救ひ出は二藏をぬめ八戒沙僧も大い小驚き且惟悟
 る悟空も真身の外小右にうると増々行者が神通を感し頓て白馬と
 行李を尋出山前後の門の小娘等が護居て脱れぬかゝん我等師父
 を援けて牆頭を越て脱るふ如くと行者且驚小登り上り師父扯

上る八戒沙僧の下より推上んとするが二藏災星まど除む此時三個の
 妖魔忽ち腫と覺し火焼の小娘を呼るふ一個も吞せざるは怪し
 銅箆の連ふ立出見む小娘等前後も知は熟腫し銅箆の下み火の気
 も多く却て鉄箆を打反り唐僧亦も在ざるは妙を妖魔大い驚
 慌得宿の唐僧を逃しう快くまのて控よと呼とる詩琴の小娘一
 小起出まの火把と取燈箆を照し城中都て白昏の如く四面小別
 々查勘廻る老鹿疼ふ二藏を見着忿然とて牆の下みまの至つし
 二鬼二鬼も續りてまり再度三藏八戒沙僧を生摘許すの小娘是
 を扯立裡み入て八戒沙僧の両足の柱小細縛つけ二藏の白王宮の後邊
 たる錦香亭の裡み置堅く鎖して守せたり行者の己小牆の上
 在り故急小雲小垂て身と遁し妖精亦が都て裡み入城中此下静

こころを見て又雲を下つし城中へ小女の像を蒙り師父の在る如
と香勤小唯八戒沙僧の柱を縛めらして左師父の却て見えぬは行
者頭て一個の小女を呼て御小大王の扱ひひく唐僧の奈何のしよと尋
せを小女答て我も是を知は御小近士の説語を聞小大王又孫行者
がまより奪ひ行人を拍と交生食ひゆひ由り行者是を聞又雲小駕
城外へ出口管相と流りくろ密小思ひやう此更都て如來の爲業あり
他極楽世界へ居住し暇小任せて二藏小徑を遣人と作言は若実小
東土へ往と傳んと思ひ他方より送り遣りてき更るを却て我小
まより要めさせ千山万水の艱難を歴今日爰小至つて終小命を失ひ
ころ我今如來の處小行て師父既小失給ひく更と告我頭の金瓶と
外へ故郷花果山へ帰るべくと勿ち勸斗雲小打跨て西方へ向ひて赤

行須申の間小灵山小至つて宝蓮臺へ近著如來を拜し泪を滝の如く
流し唐僧の女精小吃ひてくる更其外の更ども仔細小語つて方望の大
慈悲心と以て我頭の金瓶と拔せりるべくと涙小咽びて訴へ多し如來
笑て曰く心と惱は更つるべと彼女精神通廣大なり我惠眼を以
て彼女精を見小老鹿二鹿とも小皆主人有彼二鹿の却て我と此二
の親あり行者曰く其親とのひの如來の父堂なるや女堂なるや如來
曰く天地間初より時万物盡く生じ其中小歎の類あり禽の類あり
獸の類ありを以て長くと禽の鳳凰を以て長くと鳳凰又交合の氣あり
て孔雀大鵬を生じ以孔雀出世の時人を食ひ更甚しく四十五里の
間の人民を一口小吸ひく我其時雪山小在り丈六の金身と成り時
又他が肚の裡小吸ひらと肛門より出て我金身を汚ん更を怕

依て他が背上を割て鑽り出ると山小登り他々命を傷んと思ひうども
 諸仏来りて會し孔雀と傷るや我母を傷る小寺と勸解住る故
 遂に他を尋山小住め置仏女孔雀大明王菩薩と号し今獅駝国
 の二鹿ハ彼大鵬ふて孔雀と一母なり此故ハ我此の親あり行者笑
 て曰く如來曰くどうくうんば如來ハ却て好精ガ甥小有むや如來曰
 く我好精小親因ありて我自ら往て他を降伏まぶるとして阿難迦葉
 小命いと五臺山の文殊菩薩我眉山の普賢菩薩を宣ひ此二尊
 を従へて獅駝国小向つて出づる人ハ行者も同く雲小駕後小後ハ赴
 ころろ不戻時獅駝国の城地小至らるるハ行者日雲より下り城門
 小立て高く呼つて曰く業畜早く出て孫悟空ハ棒と領よと罵り
 たり二個の好鹿見を同て個々益械を取て一奇小跑来る行者二

個を對敵ゆくと少時戦ひ頓て戦ひ負て空中小逃升つて如來の金
 光の裡へ隠れり二個の好鹿も雲小垂て赴上まりりりり勿ち三尊
 の仏菩薩の雲中に見ゆるを見て老鹿二鹿大りの驚き彼降伏志
 願して我々が主公を請へ来りてやと多き逃んとする處を文殊普賢
 の二尊御色高く畜生志願帰り飯らるるごとく喝らるるハ兩個の好
 鹿益械を投捨身を揺ごと見え見え本相を現し老鹿ハ喜御
 二鹿ハ白象と成りたり彼二鹿ハ是を怖れ行者と捉んと近
 着らるると如來手を奉て指ざり給へ他も終小本相現し二個の
 大鵬金翅鵝とあり一線の縷を翹り掛らし再度遠く飛去又能て
 び行者其時金光の裡より立出如來を拜して曰く仏爺今好精
 を降伏しぬ小喜惟喜と雖も己小師父と好精小小吃し我今志

とも為すまゝさく大鵬牙を咬で怒て曰く你隆振這捕の狼人を請
 まり我れを困苦却て我れを師父を食せとらと偽るや你が老
 和尚現れ今錦香亭の裏に左誰う敢て他を吃ひらや行者是を
 聞て大方の小権喜多き如ま小拜謝とて如未遂小三喜且隆と偽
 小二個の女鹿を引領紫雲を放つて西天小飛去るの行者の直ち小
 城中小飛下りて小女等の二個の女鹿降伏せしむるを見ん大
 家四方小逃散して一個も止住居者なく行者遂に八戒沙僧が索
 を解て二個とも後宮小入錦香亭小至り鎖と穿て裡を見を果
 くと二藏以處に居りて二個まゝ入て細縛を解く助け出り四
 個個々推始れり行者仔細小如未の好精を降伏し由と
 語ると是時城中小在て休息し飯を安排し個々吃し然りと亦城を

出西方小向つて急がせしむ

比丘憐子遣法神 金殿識鬼談道德

二藏師徒の御馳国の難と道と教月を徑て又一座の城地小至る
 市街最賑はれた中各家々の門毎小都て一個の鴛鴦籠あり皆五色の箔
 を以て上を遮慢らう二藏是を見て態度やらんと怪とるへ行者我
 今見届まるるぐと忽ち蜜蜂見と驚り彼結の裡に飛入て列ねて
 八九家と窺ひたり小盡く五六歳計の孩兒を鴛鴦籠の裡に安置し
 是行者頃て飛歸りまかり師父小此由語りて是れ何とも
 分るは四徒四人跡怪と行處小遂に金亭駅鼓小ゆるる二藏駅至
 小見えて朝小入て関文を擲んを求め人小駭曰く今日已小晚
 小及んで朝小入るの支能は明日を待て入朝し人今宵を此街門小

比丘國三藏
許多赦小兒



繪本西遊記三編六十一

宿のふべりとて客房めいり歇せせり三藏深く拜謝し其後
 巫小問て曰く此城中小見の門毎小小見と名電小入置り彼は何
 の為なりや駈亟低言て曰く長老是と問ふも其明も
 西小赴きぬ人三藏是を問て殊々怪き再三仔細を問ぬ
 則ち人を辨け怕々煩々て語て曰く此国の原比丘国と号し候を
 近比民間の謠言ふより小子城とよぶ此三年前一個の老者一
 個の美女を伴ひまゝ國王小献は國王此美女を深く寵愛し遂
 小彼老者を国丈と称し彼女子を美女と號けぬ是より國王召
 夜觀樂を貪り酒色小溺し近頃精神疲し苦と大医院の良法
 を進むむごも更小駈り彼国丈我海上の仙方ありとて十洲三島小
 去て其術を求めまゝ其謀引小千百十二個の小児の心肝を用ひ是を

煎じし其を服せしり千年不老の功有と国丈を教ゆ任世國中命を傳
 へ五六歳の孩児を求めり小彼籠の裡あり小児を則ち謀引小用ん
 為り人家の父母の王法小懼て表面小悲し數と雖も内は想計り
 べし依て此城を小子城と号し候是國王無道のまゝり長老明日
 入朝しふとも管は漏しぬ其まゝと仔細と告終りて駈亟の退たり
 二藏是を聞て此國王心度這樣無道なる許其の小児の性命と断
 て其身一個の寿を延んとせりやと只管候と流しぬ人を沙僧勸解て曰
 師父慈悲の心吉なるを極て彼国丈一個の妨邪して人の心肝を喰ふこ
 思ひ法を設て國王を欺きし人計りて行者曰く悟淨が言たの
 理あり我明日像を畫し師父小跟着朝小入彼国丈と定規ひ若妨邪を
 他を授へ國王小示し小児等命を救ふと三藏曰く你若此小児們

が命を救ひ得た天大の功德するべし唯怖るる國王理非を察せし却
て我を罪せむと奈何行者曰く我自ら為法あり今宵且此小兒を外
匿し置明日其理の宜き小に従ひて計るべしと行者直半空に飛升
つて一巻の暗浄法界を唱へ城隍土地神并小揭諦功曹等の諸神と
呼集め此比丘國王許妾の小兒の心肝を取て某引と為んとは我師父
此小兒等を救んばと思ひし万望の列位彼小兒亦と山林に匿し一
両日食を共にして守護するべし國王を正果に勧解て後個々返す
るべしと方乃ち此の衆位の神筆都て許諾し勿心ち一陣の陰風を卷
滾々として城中に降り彼小兒等を籠と俣ふ盡く携去行方も知は
成小く行者則ち雲を降り師父斯と告るは二藏大の小権怡再
三行者を賞謝しけり其夜の個々安寐し天曉小至り二藏衣を整理し

て朝小く行者の蟻蜂虫と愛し師父の昆盧帽子の上小住し居二藏
朝門外より黄門官小見え貧僧を東土大唐より西土小至りしに
取の僧より今関文と換ん玉城小至りして仔細小ま歴と述るへ
を黄門官へて斯と報じ國王昔を傳へて唐僧と殿上小宣登らせ関
文と見終りし宝印を用ひて二藏小返す時勿心ち富駕官上
前出り國丈爺さまよりゆへりと養を國土多き竜床を下り身と
形めて出迎り二藏則ち一邊小座を擇て密小國土と見夕の小相貌
瘵衰へ精神倦々として終小骸骨を住める形状より不交時國丈殿上小
至り國王小礼とも為げ端然とて痛瘵の上小座下頭と向りて二藏を着
此僧那国より来りしと問國王答て曰く是の東土大唐より西土小至
りし僧と求るの僧より関文と換ん玉城小至り國丈共て曰く西

西土大唐より西土小至り國丈共て曰く西

方の道何の好意有て那国小赴くや自古未唯道独称尊と云ふ他が
仙門寂滅の如き唯用れた功を費したる二藏是と問ふ人の救て二句
の應答も為らるに国王小拜謝階下小歩と下を行者則ち師父の
耳小飛入焼々小告て曰く師父彼国夫の姉怪る師父の且彼駈小返り
多し我爰小住と居て渠が消息を見へると云捨て亦殿上小飛飯るい
翠屏の上小住と居二藏の直小朝門を出彼駈小歸ると待ゆその時
五城兵馬司慌忙と入朝国王の前小奏と曰く昨宵一陣の冷風
吹まり家々の小児皆と俱小刮去一向小踪跡知候まはと告りこ
王太后驚き今日午の刻小彼小兒が心肝を取国夫が仙葉と服さんと
思ひす計らばも冷風小刮去るま是天より朕と滅しゆん處つり国夫
笑て曰く是天より階下と滅するあ非に却り長生と與へる處つり我今

日一個の絶妙の業引を見る千百十一個の小兒の心肝より勝るま更方
くつ階下お引子と以て仙葉と服しある寿と延る更方地と問う
人国王是と問う其故と問ふ人を国夫答て曰く當今まは東土の唐
僧の十世修行の真体元陽の氣志と漏む小兒の心肝小比があ万倍
の功あり他今飯て彼駈の裡小在る階下快く羽林衛官軍と遣り彼
唐僧を捉へ心肝と要り人必は脱しゆべうに国王満心懽喜遂にこ
彼ひきたる旨を傳へ羽林官を召ひひ以更と命とるま行者是と問ふ
きり殿上より飛出彼駈小飛飯る本相と現し師父亦福登つとこ
とて今問うあ動静と件一あ語々を二藏問て大り小警れた戦々兢
々とて魂と失ひつる如く呆々拵々と居りある行者曰く此難と脱ん
と為小ち師父と徒弟とさし徒弟と師父と為るあ曾は何の思ひ有ん

三藏曰く你果而我を救り何ぞ你が徒勞と爲と爲と恨んや行者曰く
然るを快く唯備と爲と日八戒の快く泥と此を取まじと云々
を八戒心得ると釘釘と取て庭の主と築崩し尿を交て和げ持ま
るる行者心中不平と雖も急卒の間まが没奈何この泥を將て自己の
面を撲作一個の程の臉を叩下夫と亦三藏の臉を撲ひ管は辭と出
しゆの更勿しと直言と念へ一口の仙氣を吹く唯々三藏勿し行者
像と愛し行者又其身を搦と三藏の撲搦と愛し絶ゆる準備整
ひたる時卒然ふ近邊懸々二千の羽林軍早くも鼓駈と取圍と
駈逐と指引ふて一個の錦衣官客房ふ入まり唐長老我國王の請待
しゆの疾々まじと呼とる此時行者の假唐僧出迎ひ錦衣主人
最畏るも降臨も貧僧何の徳有り階下の請待ふ逢古又推

喜何ぞ以上有ん今大人と偈ふ入朝階下と拜し奉んと直小客房
と立出せむ羽林軍士等前後左右小圍繞と急いで朝中小還りけ
尋洞求妓逢老壽 當朝正王救嬰兒
羽林軍士等假唐僧と扯把て朝中小飯と殿前ふ至りつと假唐僧
階下ふ立て高呼つて曰く比丘王貧僧と請るの心慮の要する
更あつや國王笑つて曰く朕偶一病を得て久く愈は侍候小国大臣
ふ一方と贈ひ今長老の心肝と要めて引子とる此其を腹せん
と長老敢て是を賜らむ長老の爲め祠堂を建立す永く香華と国小
傳のべ假唐僧曰く是甚易き更なり貧僧原幾個の心肝あり不
知國王今何色の心肝と要めるや国丈一邊より指定とて曰く我只



世に言はれし三蔵法師の腹を割りて心臓を露し給ふ事
倣三蔵割肚腹上露心膽

你が胸中の黒心と要む假唐僧曰く然らば早く刀を取まわつて我今
胸を割開き若し心有む謹んで奉らん國王是と聞て當駕官の命で把
短刀を取まわらせ唐僧の奥へく假唐僧刀を手に把衣服を解開さ
刀を胸の剛的突立肚の皮割開た五臟を掴んで扯出さ國王は
衆位の官人是と見て個々色を生ひ膽を冷し面を背じて居りたる假
唐僧臘腑の中より幾個の心肝と取出し衆官と呼んで點檢せしむる
只見紅心白心利名心嫉妬心我慢心不の有ども更し一個の黒心と
假唐僧其の心肝と取て原の如く肚の裡に收め忽ち本相を現し庭上
小立て呼つて曰く陛下全く眼有て珠を彼國丈一個の黒心も
何ぞ他が心肝と要て来引と為らざるや國丈行者が本相を看て大
の驚き你ら天宮と鬧せし孫悟空もいびやと云うと思へた忽ち殿

上より本山内院の赤い彼美公と諸俱し一道の寒光と化して那里
ともう消失さる國王群臣是と云て偕に國丈の一個の好精めて
却て此長老と真の神僧と有らんとて急だ行者と殿上へ請登
せ國王問て曰く長老は何處に這様な像と改めしや行者笑て曰く
今朝まのつと則ち我師父唐朝の御弟三藏法師我の其後孫
悟空と云ふ者なり尚兩個の徒猪悟能と悟淨師父と俱し鼓驛中
小あり御弟階下好界が言と信しひ吾師父の心肝と要めしは以
故に我師父の像の意を本とて好精と退けし國王是と聞て
衆位の官人の命と唐僧と請がませしは衆官個々駈鼓し至り師徒
三個を迎まらる行者急ぎ殿を下り師父の面を一口の仙氣を吹噴け
して二藏心も真の像の返り師徒都て殿上へ登り國王の相見ぬ

行者国王に向ひ彼好精ら果究を知らそびや国王答て曰く始
 他がまつり時甚住處を問うるゆ此南七十里一座の柳林坡あり
 其裡の清花莊に住すと云て送不支ゆと深く他は狂惑さす今日
 亦他は欺るゆと罪を法師老仏小得るう万望の神僧大法力を頭
 後日の患を除け彼妖怪と降伏する生々世々大回心を志し脚へ
 行者答て曰く我宣ふ階下小告べ彼鸞龍の裡の小兒を我師
 父の慈悲を以て我小遣めりひり階下且師父と偈ふ女時爰の
 待り我八戒と偈め那里の去好精を捉へまらんと直小雲を波
 くと空中小飛去るを八戒を扯續け雲小駕南を指て飛行る
 国王群臣是を首して我門都て唐僧輩を異形の長老ると怪と
 備の真仏臨九ると一齋小空小向ひを拜らる行者八戒七十里

余は打て行雲を下りて見を一股の清溪あり洞の一邊小千方株の
 揚柳崖を挾て排列却て清花莊の何処小左を見は行者則ち唵
 字真言を唱へ當方の土地神を呼出清花莊の那里に有やと云け
 土地神答て曰く當方小清花莊と云る唯一個の清花洞あり
 行者曰く其清花洞の何里に有や土地神曰く大聖南の所小九又
 頭小分むる一頭の揚樹あり其揚の下左小二篇右小二篇轉つて
 両手を以て樹を撐て門を開くと三言高呼給り則ち清花洞現
 出へ行者是を問て且土地神を偈へ八戒を偈へ南嶺小尋ま
 を果的一頭の揚樹九條小分むる有行者土地神の教を以て左の
 三篇右小二篇轉つて手を以て彼揚樹を拍て門を開くと呼らる
 を忽ち一言の响ありと兩嶺の所現し門内の石屏の上小清花仙存

と四個の大字あり行者徑の門を闚りて石屏の後小至まを被女措
一個の美女を抱きて裡小座一居るが行者を見て方り小怒り言の蟠
竜拐杖を取て行者と打んとま行者鉄棒を以て架住兩個洞外
跳り出千變万化と相戦八戒彼九義の揚樹を押倒し釘釘と拳
く築碎きるを鮮血液々と迸り嚶々として色を奪は姑怪の行者
と戦ひて力疲れ敵まらる夏能り自身を揺りて一道の寒光と
交り東小向ひて逃去んとは時小忽ち空中小南極老人現れまひ
彼寒光を推住め大聖の時待り人天蓬打夏を休し八戒笑て曰く肉
頭兒寒光を單住するぞ極めて姑怪を扱へる南極壽星曰く姑
怪已小爰小左方望の両公他が命を饒り人行者曰く南極壽星と
相親むる態度るる詔ぞ壽星笑て曰く他を原我家の白鹿あり前

日東華帝君我家小まるとい我と棋を囲めて戲して其間他を
菌中よ放ち置り他間を窺ひ爰小まるとして姑怪とるまら他出てよ
夏飯らざる夏既小三日を過天上の三日と下界の二年我今衛々
小尋ね得る行者曰く已小壽星の物さるる我等敢て他を傷ら快
く領て飯らると人壽星夏を例と兩個小拜謝し寒光を放ち一色を
喝し人を送り一隻の白鹿とる壽星則ち以鹿小打踏ら飯んとし
ゆふまを行者担住めて曰く今比丘國王以女精小懸るる病を得て
愈は万望の彼國王が壽を延る壽星曰く我鹿を尋ね小出故丹
茶を持来らば唯懐中よ三個の乗見あり是を你小贈る人國王小
與へて疾病を愈せよとて取出し與へる人行者是を受收め遂小壽
星小批別と八戒と俱小又階花洞小飯り人を被義人戦々競々外画

南極寿星収
妖怪飯天上
四六



小逃平んとまろを八戒跪つ侍て二條ゆつた殺せぬ忽ち本相理すと
白面の狐と成ゆろ行者是を見ても是国王の愛する美后より今半
つて他小見まべとて死狐を手の拙者て八戒と俱小頭て比丘国
飛飯と殿上小至る国王三藏小見え寿星と妹精を收めひきき又
を語つ彼国丈の一個の白鹿めて此狐の則ち美后よりと見せると
を国王のたい小耻入但惟喜衆位の官人亦感歎小絶忽ち東閣
を開いて素真を安排し国王手親杯を捧げて三藏師徒小進め妹
怪を降し小兒を故小の回を謝し行者又寿星より給さるる束
兒を国王小贈つ與へりむを国王方の小惟喜直小是を服し多人を
病立地小愈て精神健固小成るるも増々深く息を謝し六管四個
を接待くつ期て三藏の国王小辞語を告て西方へ進ん度と日へを

国王止更を得は唐僧と竜車小座せしめ君臣后妃盡く城門を送り出
る時勿ち空中小吉有て大聖前日央そ小倚て小兒亦を指しお死
つる今日大聖功成て妖怪と平ぐ依て今返り送るるると云うと思へを
破破落落と千百十個の小兒を鷲筆と俱小城門の前小落つる三個
の徒才是を見て城中の百姓ども早く来て小兒を受取よと呼ぶと城
中の百姓等此更と聞けりも皆我先小と群り来り個々我兒を尋取只
管小惟喜騒ぎたふも有る舞も有る是都て唐僧爺々の恩徳ありと三
藏の車を扯回し亦徒才亦が異形なる姿をも怖れは八戒と肩小驚泣
僧と手車小座せしめ行者を頭小頂き一個小二十人二十人づつ取馬を
牽荷と擔ひ城中小飯入其形勢言語小絶は国王の是を制さる更
能は三藏師徒没奈何再度城中小回り入家々の供養を受一月余

再... 池

譯解

東武

岳亭五岳



圖畫

日所

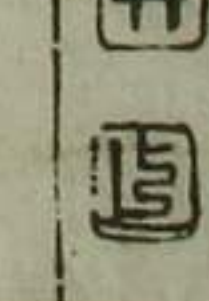
葛飾戴斗



彫刊

皇都

井上治兵衛



繪本西遊記四編

全部十冊

近刊

此編と前々の編と嗣て三藏法師をとり孫行者猪八戒沙悟淨の三人諸道の嶮難悪所を徑百般の妖を或は退け或は降し遂に西天に到佛と拜し經を得て大唐へ皈朝し追記し西遊記を全備す

里見八犬傳第九編

十冊

當未の春より賣出中

題馬詩刪

全二冊

題馬詩選

全壹冊

書畫比白宜小本二冊

書家必用の小冊諸君子常小案上小備置

其自在を得んと得んと云ふことあり實小書と云ふの君子必携し易の珍寶とも可謂小冊あり

書肆

大阪北久賢寺町心齋橋

河内屋源七郎梓

